

医師確保

住民不安や要望への対応は

誠心誠意取り組んでいる



やまさき まさお
山崎 正男 議員

住民の方々の不安をしつかりと受け止めながら、現在、その医師確保に向けて、誠心誠意、町長を筆頭に取り組んでいることをご理解いただきたい。

答 坂本教育長

児童生徒の日常の生活における医師の必要性はもちろん、学校生活を営む上においても医師は欠かすことができない。児童生徒の健康対策や緊急時の対応等の面からも、地域へ医師が常駐することは非常に重要である。

う想定の中で、伊方原発の再稼働について、原発の安全性や経済性をどのように受け止めているのか。
原発再稼働の是非を明確にし、国や県に訴えるべきではないか。

答 大西町長

再稼働、停止のどちらも広く国民理解が大前提となる。そのために、国には施設の安全性とエネルギー施策全体について、これまで以上の説明責任が生じると考える。

基本的には、将来の方向性は脱原発であると考えているが、いったん再稼働を認めざるを得ない状況も、当然発生してくる。
地元同意で、現地の伊方町や愛媛県知事の判断があるかどうかと思う。

当町は、地域防災計画の中でこの原子力災害の規定をし、県と整合性を取りながら、この災害対応作業が必要になる。

答 村越 地域住民課長

佐賀診療所は、公設民営で長い間西村医師が経営をされた後、平成14年から、真崎医師が引き継ぎ、現在まで14年間、開業をされている。

問 医師確保をどのように進めるのか。住民の不安や要望に対応するのに町はどのように考えているのか。現状と今後の対応を聞く。

また、学校サイドでは医師の必要性をどう感じているか。

震災対策

原発稼働の是非を明確に 将来の方向は 脱原発である

問 震災が今にも起こるとい

漁業対策

漁港の静穏度の解決は 更なる整備を 県に要望する

問 漁業対策の一環として漁港の静穏度をどのように解決していくのか。船舶の安全管理対策として町はどのように考えていくのか。



台風時には漁民の不安が常にある。解決策は

答 尾崎 海洋森林課長

佐賀漁港の静穏度対策は、県管理漁港として以前から、港外の防波堤、突堤、ならびに消波ブロックの設置を行っている。今後は、現在の整備効果ならびに波浪状況の検証を継続し、漁協の協力を得ながら、台風時の動画、写真撮影等による現地の状況確認を行い、更なる整備を管理者である県へ要望していきたい。